中宇治地域市民協働推進拠点
基本ビジョン

令和６年１月

宇治市

目次

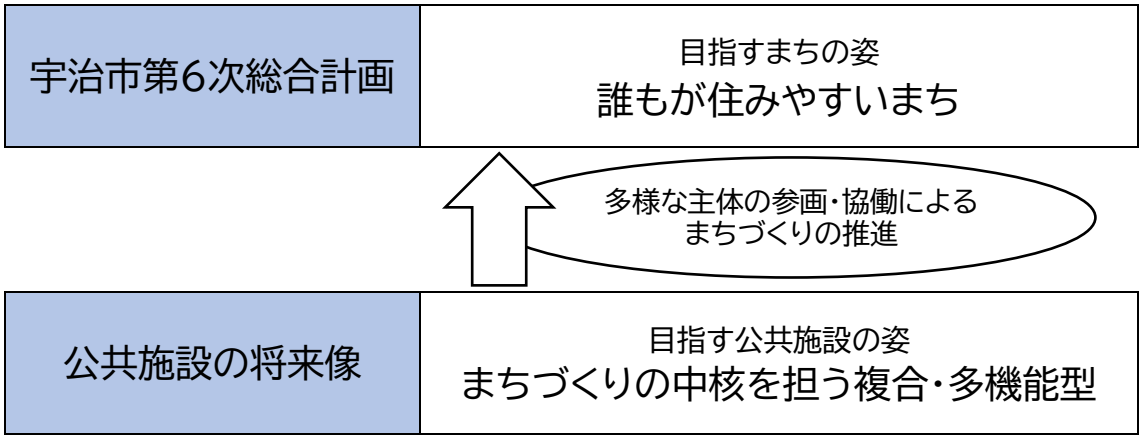
1. 策定の背景と目的 …… 1
2. 中宇治地域における公共施設整備に関する意識調査 …… 2
3. 中宇治地域　市民協働でつくるまちづくりの拠点ワークショップ …… 3
4. 中宇治地域市民協働推進拠点のテーマとコンセプト …… 5
5. 必要とする機能 …… 6
6. 整備場所 …… 7
7. 今後の進め方 …… 8

資料編 …… 9
・中宇治地域における公共施設整備に関する意識調査の結果（抜粋）
・中宇治地域　市民協働でつくるまちづくりの拠点ワークショップについて

1. 策定の背景と目的

宇治市では、令和 4 年度をスタートとする『宇治市第 6 次総合計画』の重点施策の一つとして、誰もが住みやすい共生社会を目指し、地域が地域住民にとって住みやすい場所となるよう、地域で活動する住民同士のつながりなど、地域力を育む仕組みづくりを定め、まちづくりを担う人や組織同士をつなげる仕組みを構築しながら支援するとともに、人々に開かれ、自然と人が集う空間の創出と、空間を中心としてつながりを促進する取組を進めています。

また、令和 4 年 4 月に策定した『市民協働によるこれからの公共施設に向けて～公共施設の将来像～』では、まちづくりの重要な役割を担う公共施設が、今後どのような形を目指していくべきであるか、市の方向性を示しました。それを踏まえ、世代や目的に捉われない気軽に立ち寄れる開かれた場、立ち寄りたくなる場であって、自然と人が集い、交流が生まれるような施設になる地域の拠点（市民協働推進拠点）づくりを目指し、多様性・柔軟性があって、多くの人に利用され、活動につながる複合・多機能型施設の整備を進めています。



中宇治地域においては、令和 3 年度から『子育てにやさしいまち実現プロジェクト』をモデルエリアとして実施しており、プロジェクトの一つである「まちのリビング創出促進事業」では、「ばしょ」「きっかけ」「つながり」をキーワードに、若者や子育て世代をはじめ多世代にわたり、集いやすく、居心地のよいコミュニティスペースの創出促進を支援することで、様々な活動が生まれ、市民協働の機運が高まっています。

本ビジョンは、中宇治地域において、既存の枠組みに捉われることなく、公共施設の将来像のモデルとなる市民協働推進拠点を整備していくにあたり、必要とする機能や具体的な整備場所及び今後の方向性を示すために策定するものです。中宇治地域市民協働推進拠点として、その機能などを評価する中で、その他の地域への展開につなげていきます。

2. 中宇治地域における公共施設整備に関する意識調査

中宇治地域における拠点の整備と、宇治公民館と菟道ふれあいセンターの敷地の利活用方法の検討目的に、アンケート形式で意識調査を実施しました。

(1)実施期間　令和5年１月16日(月曜日)から令和5年2月17日(金曜日)まで
(2)実施方法　①公共施設6か所に、意識調査用紙及び回収 BOX を設置
　　②WEB 上で実施
(3)回答総数　366通

(4)調査結果
〇利用したいと思う公共施設について
自宅から近い施設、魅力的な設備や機能・イベントなどがある施設、ゆったりと過ごせる施設が望まれています。

〇「地域の拠点」、「市民参画・市民協働を推進する拠点」の姿について
オープンスペースを分け合いつつ、障害の有無に関わらず子どもから高齢者まで誰もが自由に利用できる施設、知り合いがいなくても通いやすい施設が望まれています。

〇「中宇治地域の市民協働推進拠点がどのような場所であってほしいか」について
30歳代以下は、「小さな子どもを安全に遊ばせたり、保護者間の交流ができる場所」を望んでおり、年代が上がるほど、「様々な市民が集い交流できる場所」を望まれています。

〇中宇治地域における市民協働推進拠点を整備して欲しい場所とその理由
宇治公民館敷地 142 件、菟道ふれあいセンター敷地129件、どちらでも良いが 56 件となっており、若い世代ほど「菟道ふれあいセンター敷地」を選択し、「宇治公民館敷地」の約6割が70歳代以上の方が選択しています。整備場所を選ぶ理由として、「行きやすさ」や「利便性の良さ」が重要視されているほか、「菟道ふれあいセンター敷地」は「周辺の環境の良さ」も理由に支持されています。

3. 中宇治地域　市民協働でつくるまちづくりの拠点ワークショップ

中宇治地域における市民協働推進拠点について、市民等と共に考える機会の創出とニーズ等の把握を目的に、事前勉強会と全3回のワークショップを実施しました。

〇事前勉強会

これまでの中宇治地域のまちづくり活動の経緯を踏まえて、市民協働でつくるまちづくりの拠点について様々な事例を学び、実際に候補地周辺を歩いて拠点にふさわしい立地などを考えました。

実施日	令和5年9月2日（土）	参加人数	49 名
内容	公有地を利用した交流空間の創出事例と手法 講師：公共R不動産パートナー　　菊地　マリエ　さん 中宇治地域のまちづくり活動の経緯 鼎談「中宇治地域の市民協働によるまちづくり～その可能性～」 まちあるき		
主な意見	（まちあるきをして感じたこと） <u>宇治公民館敷地</u> 高低差があり、徒歩・自転車でのアクセスが難しい。 <u>菟道ふれあいセンター敷地</u> 周辺に民家や新しい店舗が多い。 平地でアクセスしやすいが、車では行きづらい。		

〇ワークショップ

テーマに関する実例など、講師からレクチャーを受けた後、2つの候補地における（1）あったらいい活動、（2）拠点にふさわしい立地と空間、（3）拠点を活発かつ持続的に運営していくためのしくみについて考えました。

（1）活動について考える

実施日	令和5年9月24 日（日）	参加人数	25 名
講師	株式会社ここにある代表取締役　藤本　遼　さん		
内容	世代ごとに6班に分かれ、「だれが」「いつ」「なにを」したいかを考え、拠点にあったらいい活動について考えました。		
主な意見	<u>あったらいい活動</u> ・交流しながら学ぶ　・楽しく作る・食べる　・作品展示 ・勉強したり、ボードゲーム等で遊んだりする　・サークル活動 ・会議をしたり、歌や演奏の練習をしたりする　・運動する		

(2)場所について考える

実施日	令和5年 10 月21 日(土)	参加人数	26 名
講師	東京藝術大学准教授　　藤村　龍至　さん		
内容	各世代を織り交ぜたグループに分かれ、「拠点にふさわしい立地・空間」と2つの候補地のメリット・デメリットを比較しながら、「各候補地の理想の姿」について考えました。		
主な意見	<u>拠点にふさわしい立地</u> ・安全で子どもも一人で行ける場所 ・交通量が多くなく安全な場所 ・駐車場・駐輪場がある場所 ・ついでに立ち寄りやすい場所 ・歩いて行きやすい場所 <u>拠点にふさわしい空間</u> ・バリアフリー・子育て向けの設備がある ・広々したスペースがある　　・屋外でも活動できる ・作業や自習ができ、オフィスのように使える <u>2つの候補地の理想の姿</u> 宇　治　公　民　館　敷　地　＝　景色や自然を活かした広く開かれた場所 菟道ふれあいセンター敷地　＝　誰もが気軽に立ち寄り過ごせる場所		

(3)しくみについて考える

実施日	令和5年 11 月 18 日(土)	参加人数	26 名
講師	ミユキデザイン代表取締役　　末永　三樹　さん		
内容	ワークショップ(2)と同じグループで、これまでのワークショップで考えた活動や拠点の理想の姿をもとに、拠点を活発かつ持続的に運営していくためには「どのようなしくみ」を「どんな主体」が担えばいいのかを考えました。		
主な意見	<u>宇治公民館敷地</u> ・学生や市民団体がレクリエーション施設を運営する ・高齢者や主婦(夫)、子どもがチャレンジショップを運営する ・利用者が広場を管理・運営する ・イベント会社などがコンサートなどを実施する <u>菟道ふれあいセンター敷地</u> ・子育て世代がフリーマーケットやキッズコーナーを運営する ・子育て支援団体・学生・高齢者などが教室や憩いの場を運営する ・学生や利用者がコミュニティカフェを運営する ・民間事業者などと利用者が意見を交わしながら運営する		

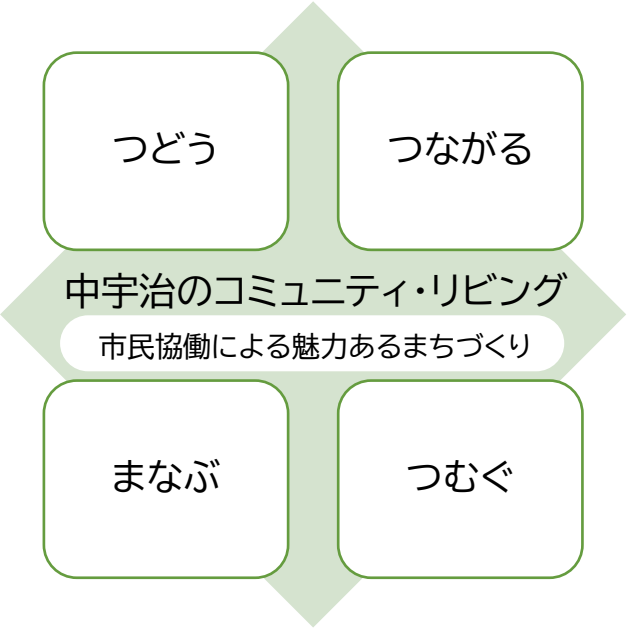
4. 中宇治地域市民協働推進拠点のテーマとコンセプト

拠点整備の基本的な考え方に基づき、公共施設整備に関する意識調査並びにまちづくりの拠点ワークショップ等の成果を踏まえて、次のテーマで市民協働推進拠点を整備します。

テーマ：中宇治のコミュニティ・リビング

～ 市民が主役の 交流・連携・学習・協働 がうまれる、まちなかのリビングスペース ～

地域に暮らす様々な市民が気軽につどい（交流）、
一人ひとりが暮らしやすさを求めてつながり（連携）、
互いの価値観やライフスタイルを尊重・共有しながらまなび（学習）、
そして地域の課題解決に向けて地域に暮らすみんなでつむぎ（協働）、
魅力あるまちづくりにつなぐリビングルームのように居心地の良いコミュニティの拠点をつくります。



1. つどう
   誰もが気軽に立ち寄り、出会い、
   自由に居心地良く過ごせる環境

2. つながる
   場所・時間・空間を共有できる環境

3. まなぶ
   様々な学びの機会を活かし、
   多世代が自ら活動できる環境

4. つむぐ
   年代に捉われることなく、相互に協力
   しながら、より良いまちを創る環境

5. 必要とする機能

既存の公共施設の概念やイメージに捉われることなく、多様な目的と用途で利用できる複合・多機能型の施設により、機能と空間の相乗効果や付加価値を創出し、「サービスの質の向上」と「地域の活性化」を目指します。

意識調査結果（Ⅱ-問3、問4）やワークショップで提案された「あったらいい活動」「しくみ」を踏まえて、新たな市民協働推進拠点には次の4つの機能を備える必要があると考えます。

必要とする機能	想定される施設※
出会いと自由な憩いの場	オープン交流スペース、芝生広場、テナント（カフェや物販） など
子育て支援の場	託児スペース、図書コーナー、広場、おむつ交換台など乳幼児に配慮した設備 など
多世代交流の場	オープン交流スペース、コミュニティカフェ、ホール など
趣味・遊び・学びの場	レンタルスペース、シェアキッチン、会議室、自習室、コワーキングスペース、防音設備 など

（※ 想定であり今後の検討により変わる可能性があります。）

6. 整備場所

地域のまちづくりの中核を担う新たな市民協働推進拠点は、テーマとして掲げる『中宇治のコミュニティ・リビング』とするため、誰もが気軽に立ち寄り、子どもから高齢の方まで世代を超えて様々な人々が出会い、つながることができる場所であることが必要であり、「日常的なアクセス」や「世代横断的な活動と交流」に適した立地であることが重要な要件となります。

意識調査やワークショップの結果を踏まえて、中宇治地域の地理的な中心に位置し、住宅地や商店街と近く、多くの人が足を運びやすい菟道ふれあいセンター敷地に、中宇治地域の市民協働推進拠点を整備します。なお、宇治公民館敷地については、教育委員会などの意見も聞きながら、当面、観光需要に対応するための駐車場としての利用や、イベントなどに使えるオープンスペースとしての活用などについて検討します。

○中宇治地域における公共施設整備に関する意識調査

「地域の拠点」、「市民参画・市民協働を推進する拠点」の姿として、オープンスペースを分け合いつつ、誰もが自由に利用できる施設を望む割合が最も多く、整備場所としては、「行きやすさ」や「利便性の良さ」が支持されました。

○市民協働でつくるまちづくりの拠点ワークショップ

事前勉強会におけるまちあるきで体感された主な意見として、宇治公民館敷地は道路の高低差があり徒歩・自転車でのアクセスが難しい、菟道ふれあいセンター敷地は周辺に民家や新しい店舗が多く、平地でアクセスしやすいなどが挙げられました。

2つの候補地それぞれは、宇治公民館敷地は景観の良さを活かした広く開かれた場所となるなどの意見が挙げられた一方、菟道ふれあいセンター敷地は誰もが気軽に立ち寄り過ごせる場所、子どもたちの遊び・学びの場所やまちのセンターとして多世代が集いつなぐ場所となるなどの意見が挙げられました。

7. 今後の進め方

従来の枠組みを超えた多目的・多用途な施設を目指し、機能の複合化等による施設規模の最適化や効率的な管理運営によって、市民サービスの維持・向上を前提としながら、経費の削減や業務の効率化を図るため、公民連携の可能性を検討します。

また今後、この新しい拠点が豊かな地域社会の実現と魅力あるまちづくりを進める拠点となるよう、ワークショップなどを通して市民の皆様と共に考え、その上で、必要とする機能や運営形態の具体化を進めてまいります。

・意識調査Ⅲ　多機能型の公共施設を整備する場合の利活用のアイデア……P.12～13

・ワークショップ（3）拠点を活発かつ持続的に運営していくためのしくみ……P.4

- ・子育て支援団体・学生・高齢者などが教室や憩いの場を運営する
- ・民間事業者などと利用者が意見を交わしながら運営する
- ・高齢者や主婦（夫）、子どもがチャレンジショップを運営する

（参考）宇治市公共施設等総合管理計画　基本方針（2）（概要）

新規整備にあたってはPPP/PFI※など民間活力の導入を推進するとともに、複合化等による整備費や維持管理経費の削減に努めるなど、公民連携を図り、特に民間活力を活かし、市民サービスの充実を図る。

※PPP/PFI…PPPは、官（Public）と民（Private）が役割を分担し、公共施設整備、公共サービスの提供、公有資産を活用した公共性の高い事業を実施していく様々な手法の総称。PPPの主な実施手法として、PFI（公共施設等の建設、維持管理、運営などを民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法）がある。

≪資料編≫

・中宇治地域における公共施設整備に関する意識調査の結果（抜粋）
・中宇治地域　市民協働でつくるまちづくりのワークショップ　レポート

＊中宇治地域　市民協働でつくるまちづくりのワークショップの様子をまとめた動画は、
　市ホームページに掲載しています。

https://www.city.uji.kyoto.jp/site/nakauji-shiminkyodokyoten-vision/68692.html

中宇治地域における公共施設整備に関する意識調査の結果（抜粋）

Ⅱ-問2【利用したいと思う公共施設の特徴（複数回答）】

【世代別】

選択肢	全年齢		30歳代以下		40歳代から60歳代		70歳代以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
① 自宅からの距離が近い	255	25.3%	53	18.8%	61	22.1%	139	31.3%
② 利用できる時間が長い	87	8.6%	19	6.7%	16	5.8%	52	11.7%
③ 魅力的な設備や機能がある	179	17.8%	57	20.2%	59	21.4%	62	14.0%
④ 魅力的なイベントやプログラムがある	155	15.4%	47	16.7%	51	18.5%	55	12.4%
⑤ 職員の対応が良い	73	7.2%	20	7.1%	15	5.4%	37	8.3%
⑥ ゆったりとしたオープンスペースがある	121	12.0%	47	16.7%	31	11.2%	43	9.7%
⑦ 複数の行政機能を持っている	50	5.0%	14	5.0%	8	2.9%	28	6.3%
⑧ 商業施設などの民間施設と併設されている	56	5.6%	22	7.8%	23	8.3%	11	2.5%
⑨ その他	32	3.2%	3	1.1%	12	4.3%	17	3.8%
有効回答数	1008	件	282	件	276	件	444	件

Ⅱ-問3【「地域の拠点」、「市民参画・市民協働を推進する拠点」の姿】

【世代別】

選択肢	全年齢		30歳代以下		40歳代から60歳代		70歳代以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
① 知り合いがいなくても通いやすい施設	108	30.3%	31	30.4%	29	30.2%	46	29.3%
② 同じ世代、同じ趣味の人が集う施設	64	17.9%	9	8.8%	11	11.5%	44	28.0%
③ オープンスペースを分け合いつつ、子どもから大人まで誰もが自由に利用できる施設	149	41.7%	57	55.9%	43	44.8%	49	31.2%
④ 友人同士のみで部屋を利用できる施設	16	4.5%	4	3.9%	6	6.3%	6	3.8%
⑤ わからない	5	1.4%	1	1.0%	2	2.1%	2	1.3%
⑥ その他	15	4.2%	0	0.0%	5	5.2%	10	6.4%
有効回答数	357	件	102	件	96	件	157	件

Ⅱ-問4【中宇治地域の市民協働推進拠点がどのような場所であってほしいか(複数回答)】

【世代別】

選択肢	全年齢		30歳代以下		40歳代から60歳代		70歳代以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
① 様々な市民が集い交流ができる場所	227	23.6%	48	18.5%	55	20.8%	123	28.5%
② 創作活動や音楽活動などの活動ができる場所	142	14.8%	33	12.7%	41	15.5%	67	15.5%
③ 学びができる場所	110	11.4%	20	7.7%	33	12.5%	55	12.8%
④ 小さな子どもを安全に遊ばせたり、保護者間の交流ができる場所	167	17.4%	85	32.7%	52	19.7%	29	6.7%
⑤ 放課後における居場所	73	7.6%	45	17.3%	23	8.7%	5	1.2%
⑥ 健康の保持増進のための活動ができる場所	103	10.7%	9	3.5%	28	10.6%	66	15.3%
⑦ 高齢の方や障害のある方などへの福祉活動ができる場所	75	7.8%	6	2.3%	17	6.4%	51	11.8%
⑧ 行政サービスを受けることができる場所	51	5.3%	11	4.2%	12	4.5%	28	6.5%
⑨ その他	13	1.4%	3	1.2%	3	1.1%	7	1.6%
有効回答数	961	件	260	件	264	件	431	件

Ⅱ-問5【中宇治地域における市民協働推進拠点を整備して欲しい場所とその理由】

【場所】

選択肢	全年齢		30歳代以下		40歳代から60歳代		70歳代以上	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
① 宇治公民館敷地	142	41.0%	18	18.6%	33	34.0%	90	60.0%
② 菟道ふれあいセンター敷地	129	37.3%	50	51.5%	36	37.1%	43	28.7%
③ どちらでもよい	56	16.2%	22	22.7%	24	24.7%	9	6.0%
④ どちらでもない	19	5.5%	7	7.2%	4	4.1%	8	5.3%
有効回答数	346	件	97	件	97	件	150	件

【理由】

選択肢	宇治公民館敷地		菟道ふれあいセンター敷地		どちらでもよい		どちらでもない	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
① 眺めが良い	6	4.4%	1	0.8%	2	4.0%	0	0.0%
② 行きやすい	48	35.6%	35	27.6%	6	12.0%	1	6.3%
③ 利便性が良い	53	39.3%	43	33.9%	7	14.0%	2	12.5%
④ 周辺の環境が良い	8	5.9%	34	26.8%	6	12.0%	1	6.3%
⑤ 親しみがある	6	4.4%	2	1.6%	2	4.0%	1	6.3%
⑥ 思い入れがある	6	4.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑦ 災害時に安全	4	3.0%	5	3.9%	4	8.0%	0	0.0%
⑧ その他	4	3.0%	7	5.5%	23	46.0%	11	68.8%
有効回答数	135	件	127	件	50	件	16	件

Ⅲ【多機能型の公共施設を整備する場合の利活用のアイデアについて（自由記述）】

問1　施設の中で公共が担う部分の利活用方法についてのアイデア

回答数　206 件

（主な回答内容）

◇多世代交流の場

・子どもから高齢者まで、誰もが気軽に立ち寄って心地よい時間を過ごせる場所
・誰でも自由に過ごすことができ、幅広い世代で交流できるスポット
・利用目的を限定せず、誰もが利用できる作業スペース、活動スペース
・市民全員が自由に使うことができるオープンスペース、多目的スペース

◇子どもの居場所、子育てスペースとしての活用

・未就学児が、気軽に通えて、安心安全に遊べる屋内外のスペース
・子ども達が、元気に遊ぶことができる広場や遊具
・授乳やおむつ替えができる育児スペース
・子育て世代同士の情報交換できる場所
・子ども達の放課後の居場所、図書スペース、宿題や自習ができる場所

◇高齢者の活動の場、健康の保持増進の場としての活用

・独居の方などが孤独にならないよう、高齢者が集い交流できる場所
・高齢者が学びやサークル活動を行うことができる場所
・体操スペースや健康器具などを整備し健康づくり活動をできる場所

◇趣味やサークル活動の場、イベントスペースとしての活用

・自由にサークル活動のできる場所
・同じ趣味の人が集い、音楽活動や創作活動などをできる場所
・発表会や展示会が開ける場所
・マルシェやお祭りなどを開催することができるイベントスペース

◇みんなが利用しやすい施設

・将来にわたって、みんなが使い続けていける施設
・未就学児、高齢者や障害のある方など、誰もが使いやすいバリアフリーな施設
・休日開館や閉館時間を遅くするなど、平日の日中以外の時間にも利用可能な施設
・駐車場の整備や、コミュニティバスの運行などアクセスをしやすい施設
・災害があった際にも、みんなのよりどころとなるような施設
・行政手続きや、行政に関する相談、情報の収集などができる場所

◇その他
・公共施設整備は不要もしくは最小限にとどめるべき
・社会教育活動のための公民館機能
・無料で使用できる施設にして欲しい
・受益者負担となるよう有料部分も設けるべき

問2　施設の中で公共以外が担う部分の利活用方法についてのアイデア
回答数　181 件

（主な回答内容）
◇喫茶・飲食スペースとして活用
・飲食をしながら、楽しく交流ができる喫茶、飲食スペース
・新たなコミュニティづくりのきっかけとなる喫茶、飲食スペース
・誰もが使いやすい喫茶、飲食スペース
・子どもを安心して連れていくことができる喫茶、飲食スペース
・施設利用者の憩いの場となるような喫茶、飲食スペース
・市民も観光客も使える喫茶、飲食スペース

◇日常生活の中で利用する場所として活用
・日用品の購入ができる売店やコンビニエンスストア
・コインランドリーなど日常生活で利用する施設
・施設に賃貸住宅を併設

◇趣味や習い事などで利用する場所として活用
・講座、講習会、習い事などができる場所
・音楽活動や創作活動などの際に必要となる機材を購入できる店舗

◇地域振興・福祉振興・就労促進の場として活用
・地元農作物の販売所など地域の方が作ったものを販売する場所
・マルシェや各種イベントの企画、運営
・福祉事業者が製作した商品を購入できる場所
・コワーキングスペースやチャレンジショップなど働くための場所
・お茶の提供を実施し宇治茶文化に触れることができる場所

◇民間活力の導入について
・民間テナントを活用し、施設の維持管理コストを回収できる仕組みを検討すべき
・全て公共で担うべきで民間事業者は参入すべきではない

中宇治地域

市民協働でつくる まちづくりの拠点 ワークショップ

vol.0 「事前勉強会」

9月2日 茶づな

宇治市は、中宇治地域における新たな市民の拠点づくりを市民協働によって進めていきます。9月下旬から全３回行われるワークショップに先立って、９月２日に事前勉強会が行われました。公民連携による公共施設の再生やパブリックスペースの創出に多様な経験をもつ菊地マリエさんによるレクチャーをはじめとして、宇治市市民協働推進課・今儀による中宇治地域のこれまでの活動の紹介、そして菊地さん、宇治市出身・在住の建築家寺川徹さん、今儀による鼎談が行われ、市民協働による事業の進め方について参加者の理解を深める機会となりました。最後に、拠点にふさわしい場所をイメージしながらまちあるきを行いました。

公民連携の仕組みとデザイン

最初に、菊地さんより「公民連携の仕組みとデザイン―公有地を活用した交流空間の創出事例と手法―」というテーマでレクチャーをしていただきました。前半では、公共施設の更新をめぐって、国内の多くの自治体が抱える課題について、わかりやすい解説がなされ、その解決のための手法として、公民連携の可能性について述べていただきました。今回の拠点づくりは、公共施設をつくる４つのステップ（方針策定、設計、施工、運営）のうち、方針策定の段階から市民協働によって進めようというもので、設計以降に民間が主体となる既存の枠組みよりもさらに発展した試みであるといえます。そこで、後半では、方針策定段階から市民協働によって行われた事例として、岩手県紫波町のオガールプロジェクトを紹介いただきました。町民による提案から始動したこのプロジェクトが地域に定着するまでのプロセスや、収益性を確保するための具体的な手法まで説明いただき、今後の拠点づくりの参考となりました。

これまでのまちづくり活動

続いて、市民協働推進課の今儀より、中宇治地域のこれまでのまちづくり活動について紹介させていただきました。住民の方々や京都文教大学の取り組みによって交流の起点となる場所ができ、波及的効果が生まれてきています。また、中宇治地域は宇治市の「子育てにやさしいまち実現プロジェクト」のモデルエリアとなっていますが、子育て世代に優しいまちはほかの世代にも優しいまちであってほしいとして、それを実現するための市民協働推進課の取り組みとして「まちのリビング創出促進事業」の紹介を行いました。つながりやきっかけづくりの場と機会を、市民協働によって生み出していきたいという思いを伝えました。

2023年9月2日
13時30分ー16時30分
会場：お茶と宇治のまち歴史公園　茶づな
参加者：49名
【レクチャー】
菊地マリエ（公共R不動産）
今儀妙子（宇治市市民協働推進課）
【鼎談】
菊地マリエ・寺川徹・今儀妙子

鼎談
市民協働の可能性について

勉強会の後半では、菊地さん、寺川さん、今儀の3名で、中宇治地域の市民協働の可能性について鼎談を行いました。寺川さんは、建築家としての仕事の傍ら地元の小学校の活動にもかかわる中で、他人任せではなく自分たちの力で子供たちのためにできることを考えていかなければならないという思いに駆られたといいます。子育て中の菊地さんは、「子育てによってまちづくりへの当事者意識は増したのに、同時に自分の時間はとても少なくなってしまったというジレンマを抱えている。この勉強会のような場所にも、子育て世代が参加できる仕組みがあればいいと思う。」といったお話をされました。一方で、中宇治地域の観光地としての側面も見逃せません。菊地さんは今回のレクチャーに当たって、観光地というイメージの強い宇治で、観光と暮らしを一緒に考えていくことの難しさを感じたといいます。それに対し今儀は「コロナ禍が、人の暮らしを考える機会になった。今は観光業も戻りつつあり、バランスが取れている状態だと思う。」と話しました。寺川さんは、「観光業に就いている地元の人もたくさんいるので、観光客が戻ってきてよかったと思う。しかし、これ以上増えるとオーバーツーリズムになってしまう。宇治はまだ大丈夫だが、京都市の東山地域では、渋滞により救急車の到着が遅れるなど、住民の生活が脅かされている。」として、今後も生業と観光のバランスの取れた地域であり続けたいと語られました。暮らしという部分に踏み込んで住宅の話題になり、今儀からは「空き家の数は多いのに、新たに住みたいと思う人たちに提供できる住宅のストックが極めて乏しいという現状。中宇治地域に住みたい人はたくさんいる。新たな拠点を考えるうえでは、住まいなど地域の課題についても合わせて考えていかなければならないのでは?」という問題提起がありました。菊地さんは「住みたいと思う人がたくさんいるのが強み。ぜひ、地元の、想いがある主体によって住まいも運営されてほしい。」と応じられました。市民協働による拠点づくりの意味、中宇治地域のポテンシャル、実際につくっていく際に考えるべきポイントなど、示唆に富んだ鼎談となりました。

中宇治まちあるき

最後に、２つのグループに分かれてまちあるきを行いました。地元の方でもあまり通ることのない道もルートに組み込まれており、まちの新たなポイントに驚かれる参加者の方もいらっしゃいました。また、まちあるき中は参加者の方も思い思いに言葉を交わしており、「新しい場所づくりに積極的に参加したいと思う。

子育て世代が来られる場所にするなら、車での来やすさは重要な要素ではないか。」「ぐるっと遠回りしなければいけない場所は拠点にふさわしいのだろうか。」などの声も聞かれました。まちあるき中に気づいたポイントはシートに書き込んでいただき、主催者で回収しました。参加者の気づき、まちへの思いが今後のワークショップを、そして新たな拠点を形作っていくこととなります。

まちあるきルート

今後のワークショップ予定

09.24 13：30〜16：30
#1「活動」について考える

10.21 13：30〜16：30
#2「場所」について考える

11.18 13：30〜16：30
#3「しくみ」について考える

申し込みは
こちら⟶

市民協働でつくるまちづくりの拠点
ワークショップ事前勉強会｜中宇治地域
主催：宇治市市民協働推進課
発行日 2023.09.08

中宇治地域

市民協働でつくる まちづくりの拠点 ワークショップ

vol.1 「活動」について考える

9月24日　ゆめりあうじ

中宇治地域の新たな市民活動の拠点づくりを市民協働で進めるためのワークショップの第1回目を行いました。**「活動について考える」**がテーマの今回は、兵庫県尼崎市を中心にさまざまな地域プロジェクトに関わっておられる藤本遼さんによる話題提供から発想のヒントを得たのち、6班に分かれてグループワークを行いました。

「面白そう」から始める

藤本さんは、尼崎市出身・在住で、「株式会社ここにある」の代表取締役を務められています。今回の話題提供では、**「面白そう」**から始まり地域を巻き込むこととなった、さまざまなプロジェクトを紹介していただきました。偶然、仏教寺院の住職さんと仲良くなり、「お寺でカレーを食べたら面白いのでは?」と思いつき、「インド文化を学べたらいい」と発想を広げて始まった「カリー寺」。「いろんな人が来たら面白い」けど「まちの活動に障がい者の姿が見えない」と気づき、従来の行政主催の活動を大きく変えて始動させた「ミーツ・ザ・福祉」。いずれも、藤本さんの思いつきや気づきを契機に始まったものですが、想いを持って取り組んでいる間に、地域全体のプロジェクトになっていったといいます。

お話の最後に、「日本には『お客さん』が増えているのではないか」と投げかけられました。誰かが作ってくれて、管理・運営してくれると思うのではなく、**自分のまちに主体的にかかわりを作っていくこと**で、行政でなくとも公共のためになる場所や活動を生み出していけるのだと話してくださいました。今回の参加者の方々も、活動と発想の斬新さに驚きつつ、「そんなことから始めていいんだ」と考え方を切り替えられていました。

グループワークへ

今回は、世代ごとに6班に分かれ、中宇治地域で**「誰が」「いつ」「何を」**できたらいいかについて話し合いました。ひとりひとりが想像したものをグループ内で共有し、議論の中でより具体的な活動をイメージしながら、最終的には各班で2つずつ**「あったらいい活動」**を決めて全体に発表しました。グループワーク中には、体を乗り出し、熱心に意見を交わす姿が見られました。

2023年9月24日
13時30分ー16時30分
会場：ゆめりあうじ
参加者：25名
ファシリテーター：6名
〈レクチャー〉
藤本遼（株式会社ここにある・代表取締役）

それぞれの「あったらいい活動」

1班は高校生や大学生が中心で、「面白そう」に忠実なアイデアが多く出てきて、作成されたシートはイラストで溢れていました。**「交流を通じた体験」**がこの班のキーワードとなっていました。

同じく学生中心の2班は、参加者のアイデアが書かれた付箋の数が圧倒的に多く、他の班から見学に来るほど。アルバイトやボランティア、授業など学生ならではの経験をもとに、**身近な「誰が」**を想像して具体的な議論を進めていました。

働く世代中心の3班は、参加者同士で互いの意見を引き出し合いながらワークを進めていました。また、子育てだけでなく介護なども含めた**「ケア」**という話題が出ていたのが印象的でした。

4班も働く世代が中心で、子育てを中心とした多世代交流が話題に上がりました。子育て中のパパが地域との繋がりを持ちづらいという経験から、集まることができる場所があるだけではなく、**大人の得意なことを活かせる**ことが交流を促すのではという話になりました。

シルバー世代の5班は、自身が若かった頃の気持ちを想像しながら、年齢や時間まで具体的に描いた活動を挙げていました。また、**同年代でも、必ずしも求めるものが同じわけではない**という気づきを得ていました。

6班もシルバー世代中心です。早い段階で模造紙が付箋で溢れ、そこから発展して「誰が、の部分はほんとにこの人たちだけでいいの?」**「こういう人もいるのでは?」**と、班の中でも質問を投げかけ合う姿が見られました。

●●●

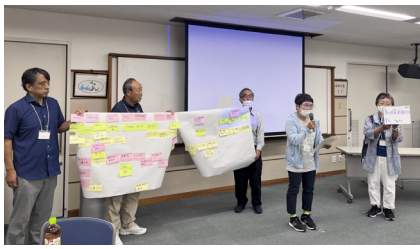
最後に、藤本さんより講評をいただきました。6班が挙げた「本」にふれられ、地域の人が好きな本を持ち寄って運営する私設図書館や、店主が日替わりの本屋の事例をご紹介いただきました。また、3班の「既存のイベントに乗っかる」ことも、最初何かを始めるためにはいい視点だと指摘されました。

現在の場所や仕組みありきで考えるのでなく、自分たちがやりたいことを具体的にイメージしていくことで、新鮮な視点から拠点に必要なものを考えられるワークショップとなりました。今回の内容は、次回以降も立ち返るべきポイントとなっていくでしょう。

各班の発表内容

だれが? いつ? なにを?

1班	学生が	長期休暇に	交流しながら学ぶ
	みんなで	いつでも	たのしくつくる・たべる
2班	宇治市に住む外国人が	行事ごとのイベントで	日本の文化を学び、自国の文化を共有する
	市民・高校生・大学生・アーティストが	3年に1度、秋に	宇治トリエンナーレをする
3班	子育てに関わる人たちが	既存のイベントで	自分の得意を披露する
	土地を持て余していて有効活用したい人が	毎日	子どもと高齢者がいられる居場所をつくる
4班	留守番するこども、大学生や高齢者が	放課後や休日に	勉強したり、ボードゲームや昔の遊びで交流する
	子育て中のパパ・ママが	休日のお昼過ぎ～夕方に	大人の得意でこどもと一緒に遊ぶ
5班	30～40代の現役サラリーマンが	仕事が休みの日に	講座をうけられる
	65歳以上のシルバー世代が	季節に合わせて10時から16時に	サークル活動をできる
6班	本好きな方が	日曜・祝日でも	読書だけでなく、自習・おしゃべりできたり
			子育てママ・パパが気を抜ける
	自治会やサークルの人が	毎日・夜間でも	会議をしたり、歌や演奏の練習をしたり、軽い運動をしたりできる



今後のワークショップ予定

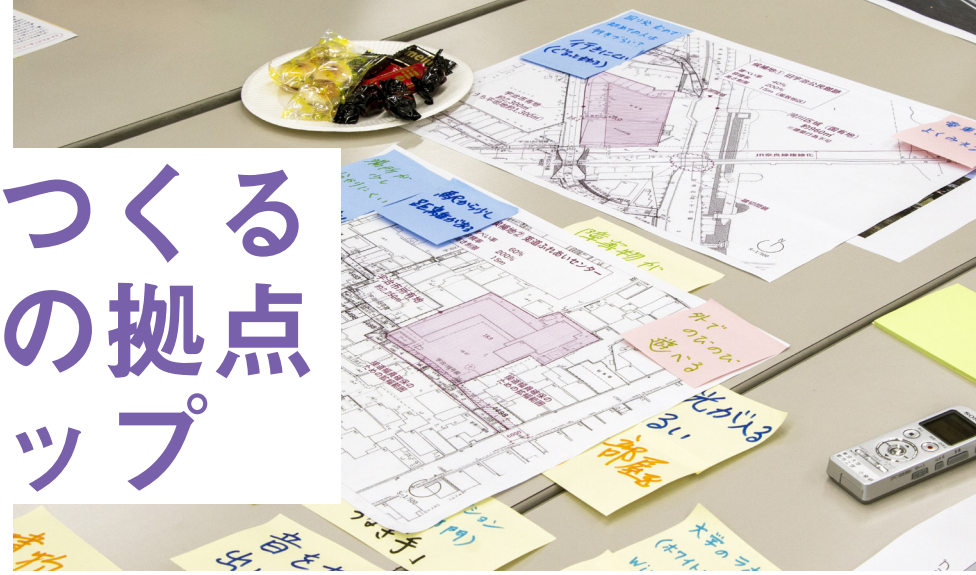
10.21 13:30～16:30
#2「場所」について考える
会場：ゆめりあうじ

11.18 13:30～16:30
#3「しくみ」について考える
会場：ゆめりあうじ

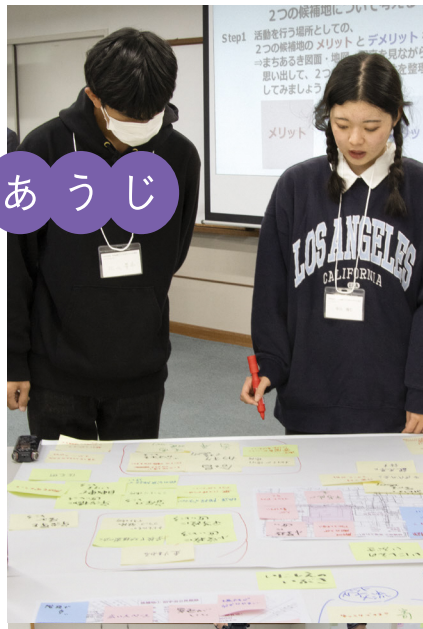
市民協働でつくるまちづくりの拠点
ワークショップ｜中宇治地域
主催：宇治市市民協働推進課
発行日 2023.10.03

中宇治地域

市民協働でつくる まちづくりの拠点 ワークショップ



vol.2「場所」について考える



10月21日　ゆめりあうじ

中宇治地域の新たな市民活動の拠点づくりを、市民協働で進めるためのワークショップの第２回目を行いました。今回のテーマは「場所について考える」です。建築家として公共施設の設計業務を行いながら、その管理運営にも携わる藤村龍至さんから、新しい公共施設をつくり運営していく際の考え方を紹介していただきました。その後、第１回のワークショップで考えた「あってほしい活動」を踏まえながら場所について意見を交わしました。

地域の課題を解決する

藤村さんが地域で活動する際には、①みんなでつくる、②公共施設を運営する、③地域の課題を解決する、という３ステップを意識されているといいます。

「みんなでつくる」の段階については、少子化に直面する埼玉県鶴ヶ島市の公共施設を再編するプロジェクトを例としてお話されました。地域の様々な人と話す中で、当初の話し合いでは見つけられなかったキッチンのニーズを引き出し、それを踏まえて会議場とキッチンを中心に設計した結果、コミュニティキッチンとして地域の方の居場所をつくることができたといいます。様々な立場の住民の要求を汲み取り、それらが矛盾しないように条件を付けながら形にしていくプロセスが重要だということでした。

「公共施設を運営する」の段階については、同県鳩山ニュータウンで、公民館とコミュニティカフェを組み合わせた新たな公共施設の運営に携わった事例を挙げられました。当初は利用率が低かったものの、公民館とカフェの機能を組み合わせた利用方法を提示するなどの取り組みを続けた結果、ニュータウンの中心で人が集まる施設になったそうです。現場で少しずつ試しながら運営していくことが成功の鍵だと話されました。また、地域の活動団体の仕組みを理解した上で、それぞれの中間的な位置で新たな運営方法を構想することが大切だというお話をいただきました。

上記のような取り組みの結果として「地域の課題を解決する」ことができるということで、多様な地域住民・団体の意見を合わせて場所を作っていく方法について大変参考になるお話となりました。

立地と空間を考える

今回は、各世代を織り交ぜたグループでワークショップを行いました。まず、拠点にふさわしい立地と空間とはどのようなものか、前回の「あったらいい活動」も参考にしながらアイデアを出しました。そのあとに、実際の候補地である宇治公民館跡地と菟道ふれあいセンターについて、それぞれの場所のメリットとデメリットを出し合いました。そして、最初に出した立地と空間の要素と比較しながら、各候補地の理想の姿についてまとめ、全体に向けて発表しました。

立地についてはアクセス面での意見が共通していた一方で、空間についてはバリアフリー、自習スペース、子供の遊び場など、参加者それぞれの立場から想像した多様なアイデアが出されました。

2023年10月21日（土）
13時30分－16時30分
会場：ゆめりあうじ
参加者：26名
ファシリテーター：6名
〈レクチャー〉
藤村龍至（建築家/東京藝術大学准教授）

それぞれの「場所」

宇治公民館跡地については、宇治川に近く自然とふれあうことができるといった意見や、鉄道に近いため大きな音を出しても迷惑にならず、活動の自由度が高いという意見が多く出されました。一方で、現在の道路の構造上遠回りしなければならないということや、住宅街から離れているため気軽に立ち寄りづらいといったアクセス面でのデメリットが挙げられました。それらを受けて、屋外でのレジャーや、音を出す活動ができる場所となってほしいという提案が多くみられました。

菟道ふれあいセンターについては、平地の住宅街の中心にあり商店街も近いという立地特性から、地域の人々が集まる場となりやすいという意見が多くありました。一方で、駅からのアクセスはそこまで良くない、住宅街の中だからこそ騒音への注意が必要であるといった声もありました。提案としては、多世代が様々な目的で気軽に立ち寄ることができるような場所というものが多かったです。

いずれの場所についても実際の活動が鮮やかにイメージできるような発表ばかりでした。参加者も、ほかの班の発表に聞き入り、時には大きくうなずいたり微笑んだりしながら聞く姿が見られました。

ワークショップを終えて、藤村さんから、「想像が主体的かつ具体的で、市民協働の可能性を感じるワークショップであった」との感想をいただきました。

今回は初めての多世代のグループワークということで、異なる世代の方と意見を交わすことを楽しむ姿が見られました。「いろいろな年代の人がいて話が広がって楽しかった」「自分では発想できないアイデアを学生から聞くことができて、考え方の違いをいい意味で感じた」といった感想をもった参加者もいました。市民協働の際にとても重要な、様々な人の想いを知る機会になったことと思います。次回はいよいよ最終回、「しくみについて考える」です。

	拠点にふさわしい立地	拠点にふさわしい空間	宇治公民館跡地	菟道ふれあいセンター
1班	・バス停や駅と近く駐車も可能 ・緑が多い ・ほかの施設と近い	・食事ができる ・防音機能がある ・作業スペースがある	○景色がよい △アクセスが悪い **景観の良さを活かし、観光客も使える場所**	○学校や住宅街と近い △道が狭い **子どもたちの遊び・学びの場所**
2班	・平坦で歩いて行きやすい ・ついでに立寄りやすい ・駐車場、駐輪場がある	・レンタルスペース ・バリアフリー、子育て設備がある ・広々したスペース	○大きい音が出せる △アクセスが悪い **特定の目的で使える広く開かれた場所**	○安全に行ける △場所がわかりづらい **誰でも気軽に使える場所**
3班	・外から中が見える ・まちの中心地にある ・駐車場がある	・子供を預けられる ・屋外でも活動できる ・パウダールームがある	○住宅街と離れている △電車の騒音 **多くの人が集まるレジャー施設**	○住宅街で人が来やすい △道が狭い **多世代が集う多機能複合施設**
4班	・交通結節点にある ・風光明媚である ・音を出しても迷惑でない	・バリアフリー、子育て向け設備がある ・読書や勉強ができる ・オフィスやラボのように使える	○駅や「茶づな」と近い △アクセスにまわり道が必要 **地域内外の人が集い交流する場所**	○近くにお店が多い △道が狭く、場所がわかりづらい **多世代の地域住民が居心地よくすごせる場所**
5班	・ほかの用事と合わせて使える ・安全で子供も一人でいける ・アクセスが良い	・靴を脱いで過ごせる ・開放的でくつろげる ・屋外で遊べる	○川や鉄道の眺めがよい △夜は暗い **景色や自然を活かした場所**	○商店街も観光地も近い △路地で迷いやすい **地域の人も観光客も立ち寄れる場所**
6班	・交通量が多くなく安全 ・歩いていきやすい ・景色が美しい	・電源、wifiが整備 ・ミーティングや自習ができる ・夜も使える ・部屋を自由に区切ることができる	○川が近く広い △周りとの高低差 **川を活かしたアウトドアなどの活動ができる場所**	○まちなかにある △道が複雑で行きにくい **まちのセンターで多世代、観光客をつなぐ場所**

今後のワークショップ予定

11.18 13:30〜16:30

#3「しくみ」について考える

会場：ゆめりあうじ

市民協働でつくるまちづくりの拠点
ワークショップ | 中宇治地域
主催：宇治市市民協働推進課
発行日 2023.11.02

中宇治地域

市民協働でつくる まちづくりの拠点 ワークショップ

vol.3「しくみ」について考える

11月18日　ゆめりあうじ

中宇治地域の新たな市民活動の拠点づくりを市民協働で進めるためのワークショップ第３回目を行いました。最終回のテーマは「しくみについて考える」ということで、岐阜県にて設計業務をしながらまちづくり会社を経営されている末永三樹さんから、持続的に公共空間を運営していくための考え方についてお話していただきました。その後グループに分かれ、どんな条件・内容・主体で運営していくべきかについて議論を交わしました。

日常に根付いた仕組みをつくる

末永さんは、岐阜市の柳ヶ瀬商店街でまちづくりに関わってこられました。その中で、無償での活動には限界があり、活動を継続していくために事業化することが必要だと気づき、まちづくり会社を設立されたといいます。そして、より持続的にするために、日常に根付いた仕組みをつくることを大切にし、商業の場ととらえがちな商店街において、そこでの暮らしや生業に目を向けた取り組みをされています。毎月第３日曜日に行っていた、こだわりの品を扱う店が並ぶ「SUNDAY BUILDING MARKET」は、その輪が広がり、第３日曜以外にも行われるようになっています。

また、公共施設のとらえ方についてもお話していただきました。利用制約が多く使いづらい印象がある公共施設でも、「せっかくだから面白がって使ってみよう」という思いをもつことで活動が始まるといいます。一方で、行政等が運営していなくても、多くの人が出入りする場であれば公共空間であるとも話され、シェアスペース・キッチンを備えた「デイリーコヤナギ」を紹介していただきました。シェアハウスの住人とその友人、シェア本棚の出店者と利用者など多くの人が訪れており、自分たちがまちをつくっているという手ごたえを感じられる場所となっているといいます。

自分たちが楽しく暮らすために始めたことが新しい日常になり、まちづくりの土壌となっていくというお話は、ワークショップを重ねた参加者にとっても思い当たる部分が多かったようです。

それぞれの視点で考える

ワークショップは、前回と同じグループに分かれ、３つのステップで行いました。

まずは、利用者・運営者それぞれの立場から公共施設の利用条件について考えました。例えば２班では、「利用時間は、自分が利用者なら土日が良いが、運営者なら平日の日中がありがたい」という意見が出ていました。立場によって望ましい利用日・時間帯・料金等が異なることに気づき、どのように運営するのがよいのかについて考える起点となっていたようです。

2023年11月18日(土)
13時30分ー16時30分
会場：ゆめりあうじ
参加者：26名
ファシリテーター：6名
〈レクチャー〉
末永三樹(ミユキデザイン代表取締役
柳ヶ瀬を楽しいまちにする(株)
クリエイティブディレクター)

どんな仕組みで運営するか

２つ目に、公共施設をより活発かつ持続的に運営していくために、どのようなプログラムや用途と連携するのがよいかを話し合いました。例えば１班や５班では、「行政だけでなく市民も参加して運営をするなら、今までの枠組みではできなかったことができるようになる」という、発想を転換するような議論が見られました。従来の公共施設が持っていた機能だけでなく、自分たちがあったらいいなと思うことをベースに多くのアイデアが出されていました。

３つ目として、それまでの議論で挙がった利用条件やプログラム・用途を実現しうる運営主体を考えました。利用者が運営に参加するという意見が多くみられたことが印象的です。また、６班では、「時間帯によって管理者がかわるのもよいのでは」という柔軟なアイデアが出ていました。一方で、新しい仕組みの中で行政にどのような役割が求められるかという話題も上がり、議論が白熱する班もありました。

これらを踏まえ、宇治公民館跡地と菟道ふれあいセンターそれぞれで、①どのような連携の仕組みを②どんな主体が担うかについて、各班が発表しました。

各班の発表を受け、末永さんからは、「共通点も多く参加者の視点がある程度そろっているように思う」との感想をいただいた上で、「実行するまでが大事で、かつハードルが高い。今回挙げた担い手をより具体的にイメージし、試してみてほしい。また、なぜ今交流の場所を作るのかを考えることで、宇治市ならではのまちづくりができるはず」というアドバイスをいただきました。

全３回のワークショップを終えて、参加者からは、「公共施設とは何かを考え直すきっかけになった」「今まで考えたことのないことで刺激になった。今回参加していない人も含め、どうやって周りを巻き込んでいくかが大事だと思った」といった感想が聞かれました。また、「ここまで話して、来年以降どう進めるのか。実際に試してみる仕組みがあるといいのでは」というような、実現のための積極的な意見もいただきました。市民同士の活発な議論がみられたことは、市民協働による拠点づくりのための大きな一歩となります。これらを踏まえ、実現に向けて取り組んでいきます。

	宇治公民館跡地	菟道ふれあいセンター
1班	景観の良さを活かし、観光客も使える場所へ ・地元の方や留学生が、異文化を学べる教室などの交流の場を運営する ・イベント会社などプロフェッショナルが、コンサートなどを開催する	子どもたちの遊び・学びの場所へ ・地元の店舗や住民が、農業や抹茶等の体験プログラムを運営する ・子育て世代が、フリーマーケットやキッズコーナーを運営する
2班	特定の目的で使える広く開かれた場所へ ・民間事業者や駆け出しの人が、チャレンジショップを運営する ・利用者が、広場を管理・運営する	誰でも気軽使える場所へ ・親世代・子育て支援団体・大学生・高齢者が、子どもの居場所や教室、高齢者の憩いの場を運営する
3班	多くの人が集まるレジャー施設へ ・女性の多い組織が、パウダールーム等を備えた多機能複合ドームを運営する ・地元の学校や、経営に挑戦したい人が、イベント会場として運営する	多世代が集う多機能複合施設へ ・保育士が、保育園を補完するような機能のある施設として運営する ・学校や英語が得意な学生が、異文化交流の場を提供する
4班	地域内外の人が集い交流する場所へ ・学生や誰でも市民団体が、レクリエーション施設を運営する ・お年寄り・主婦・子どもが、小商いなどにチャレンジできる場所を運営する	多世代の地域住民が居心地よくすごせる場所へ ・学生・主婦・主夫や利用者が、コミュニティカフェを運営する ・教室を開きたい人が、学びの場所を運営する
5班	景色や自然を活かした場所へ ・中間支援団体が、健康促進活動や学びのイベントを運営する	地域の人も観光客も立ち寄れる場所へ ・市内の高校生・大学生が、利用権付きボランティア制でイートイン付き自習室を運営する ・カフェバーを開きたい人が、同じ趣味の人と出会える場所を、施設利用料を集めながら運営する
6班	川を活かしたアウトドアなどの活動ができる場所へ ・平日は市民やサークルが、施設的な面は事業者が管理し、月に１回共同で清掃しながら運営する	まちのセンターで多世代、観光客をつなぐ場所へ ・まちづくり会社やNPO・民間事業者・利用者が、オープンデイやユーザーミーティングで意見を交わしながら運営する

市民協働でつくるまちづくりの拠点ワークショップ | 中宇治地域
主催：宇治市市民協働推進課
発行日 2023.11.24

中宇治地域市民協働推進拠点基本ビジョン

発　行 ： 令和6年1月
発行者 ： 宇治市
〒611－8501　京都府宇治市宇治琵琶33番地
電　話 ： 0774－20－8721(市民協働推進課直通)